

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

7期—7号



2008.09.05

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01

From the President / Masaru MAENO

2008年次第2回拡大理事会報告(6/14)／赤坂 信 02

Report of the 2nd Meeting of the Executive Board, 14th June. 2007

Makoto AKASAKA

国際シンポジウム「Traditional Villages and World Cultural Heritage」

(於：安東市、韓国 ICOMOS 主催) 参加報告／斎藤英俊 04

International Symposium of "Traditional Villages and World Cultural Heritage" organized by Korea ICOMOS

Hidetoshi SAITO

転機に立つ日本の世界遺産／毛利和雄 05

The World Heritages in Japan standing on the turning point

Kazuo MOURI

シルクロードの包括的世界遺産登録をめざす西安会議／前田耕作 07

Meeting in Xi'an on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads

Kousaku MAEDA

2008 ICOMOS アジア太平洋西湖会議報告／前野まさる 08

2008 ICOMOS Asia-Pacific Conference and Hangzhou Forum on Conservation of World Heritage

Masaru MAENO

お知らせ 09

Announcements

事務局日誌 10

Diary



イラスト／前野まさる (以下全て)

はじめに
前野まさる



この5月～7月は何とも様々な出来事の多かった月でした。5月12日に四川省の300kmに及ぶ大地震。そのつかの間6月14日には岩手、宮城両県の内陸部で大地震があり、更につい先日にも岩手県北部で地震があり、自然災害が続いて、津波、台風、ハリケーン、地球温暖化など、何か不気味な地球の異様さを感じます。これらの専門家の間では既に国際間の対応を取られているとは思いますが、人命は勿論、自然災害から文化遺産を守る国際間の連携を築く必要があるのではないのでしょうか。特にアジア太平洋地域では地震・津波・台風・豪雨と何でもござれで、長年自然災害に悩まされてきた日本の経験は貴重なもので、国際的に役立てる必要を感じます。

6月9日から13日までアジア太平洋地域会議が中国の上海の西、杭州の西湖で開催されました。参加国は14カ国、参加者は21名、中国からは86名の参加がありアジア太平洋地域会議に於ける中国の意気込みを感じました。古来、西湖の美しい風景は韓国や日本の庭園造景に影響をもたらしましたが、しかし、現代中国人の目から見るとこれらが「コピー(真似)」と見えるようで、日・韓の参加者から反発を買っていました。文化的景観の解釈についても、ヨーロッパの分析的視点に対し、中国は「天人合一的哲学…」と表意文字を創出した民族の違いを感じました。

こうしたアジア人とヨーロッパ人の思考の違いを抱え、来月9月末から10月上旬にかけてカナダのケベックでICOMOSの第16回総会が始まります。2009年にはCIIC(文化の道学術委員会)とCIPA(測量文献学術委員会)が日本で開催されます。今後、アジア太平洋地域会議と総会も日本で開催することも求められつつありまして、会員の一層のお力添えを必要としていますので、よろしくお願いたします。

2008年次第2回拡大理事会報告

2008年次第2回拡大理事会が去る6月14日(土)10:00から11:40まで文化財保存計画協会地下会議室(東京都千代田区一ツ橋)で開催された。出席者は、委員長:前野まさる、副委員長:杉尾伸太郎、事務局長:矢野和之、理事:黒田乃生、河野俊行、杉尾邦江、鈴木博之、西浦忠輝、濱崎一志、益田兼房、渡邊保弘、ISC委員:花里利一、主査:稲葉信子、顧問:伊藤延男、本部執行委員:岡田保良の各氏が出席、事務局から秋枝ユミイザベル氏が陪席した。審議事項、協議事項、報告事項は以下の通りである。

審議事項

1. 入退会者

以下の入会者が承認された。

入会者 個人会員

氏名	所属	専門分野	推薦者
東郷 和彦 (とうごうかずひこ)	テンプル大学 ジャパンキャンパス 客員教授	国際関係論・ 日本外交史	前野まさる・矢野和之
松浦 利隆 (まつらとしたか)	群馬県企画部 世界推進室室長	日本近代史、 技術史 文学博士(歴史)	矢野和之・前野まさる
山田 素子 (やまだもとこ)	(株)フレック研究所・ 文化財保護研究セン ター、研究員	文化財保存学・ 保存修復建造物、 文化財(修士)	杉尾伸太郎・杉尾邦江
乾 尚彦 (いぬいなおひこ)	学習院女子大学 国際交流学部 教授	建築構法 居住人類学、 工学修士	野口英雄・渡邊保弘

維持会員

	専門分野	推薦者
丹青社	展示設計・製作	前野まさる・矢野和之

退会者 なし

日本イコモス国内委員会 会員数(今回の入退会者を含む)
個人 338+4-0=342名 維持会員 13+1社=14社

協議事項

1. 2008年次理事会の日程と場所

下記の日程が矢野事務局長から提案され、了承された。

- (1) 9月6日(土) 要調整
第3回拡大理事会(ケベック総会準備含む)
- (2) 12月13日(土) 第4回拡大理事会・総会
東京

第3回拡大理事会はケベック総会準備なので時間をかけて行なうことを確認。(矢野)

2. 主催・共催・後援

西浦理事から、以下の後援依頼があり、了承された。

- (1) NPO法人文化財保存支援機構「ヨルダン王国・世界遺産遺跡スタディツアー」
- (2) 文化財保存修復学会 公開シンポジウム「東アジア、東南アジアの文化財の保存修復」

3. 世界遺産関係研究会の開催

矢野事務局長から以下の研究会の開催が提示され、協議された。

- (1) 富士山(意見交換会)

富士山での開催については確認され、現在、富士山は景観計画を策定中の山梨県を中心に意見交換会を企画しているが、富士山は山梨と静岡を一緒にやったほうがよいのではないかという意見が出された。

- (2) 長崎(研究会)

長崎については企画のみで具体的な内容については未定。

4. 学生会員

矢野事務局長から、今年度の総会に向けて案をつくることを確認。については学生会員の詳細について意見を広く求めたいとの提案があり、協議された。



5. 日本イコモスボランティアの募集

矢野事務局長から以下の提案があり、協議された。

- (1) 6月いっぱいまで就職される秋枝ユミイザベル氏にかわる人材（英語ができる人2名）大至急募集。
- (2) 毎日午後は事務局に常駐する態勢を整えたい。

6. 日本イコモス研究振興基金運用

矢野事務局長から以下の説明があった。

「前回から資金運用の話がでていたが、今回別添資料のトヨタの社債（ニュージーランドドル建）を購入する事とした。6月12日が締め切りだったため、委員長、副委員長、事務局長、会計担当理事と協議し、承認を得た後、理事及び監事に対しメール及び電話で連絡を取り承諾を得て行なった。6月11日に基金1255万円分この購入にあて、足達基金の500万円は手をつけず残しておいた。」試行期間として2年間運用することが説明され、その運用の内容について了承された。

7. 新小委員会設置について

益田兼房理事から2009年に沖縄で開催される国際会議に日本イコモスにも関わってほしいという要望があり、あわせて有形と無形の文化遺産保存に関する小委員会を設置したい旨の説明があった。これに対し、日本イコモスには無形の専門家は少ないので、「無形を含む」有形というかたちであればよいと思うが、このことで日本イコモスが無形の分野までもサポートするわけではないことを確認してほしいという意見が出された。この件については引き続き詳細を検討することになった。

8. ケベック総会について

- (1) 検討事項の依頼について

第16回ケベック大会に向けてDraft Resolutionに対する意見を継続して募集することを確認した。本部の締切は6月26日なので、国内の締切は6月21日とする旨が事務局から報告された。

- (2) イコモス総会 選挙立候補者

矢野事務局長から提案があり、選挙については事務局で会議をして具体的な内容をつめ、次回の理事会で最終的な

方向性を決めることが協議された。

報告事項

1. 2008年3月22日 2008年次第1回 拡大理事会

前野委員長から報告があった。INFORMATION誌7-6を参照されたい。

2. 小委員会報告

軈の浦について益田、河野理事他から以下の報告があった。

現時点では国交省から認可が出る状況にはなっていない。広島地裁での判決は、工事差し止めについては却下したが、行政処分によって不利益を被る、すなわち「景観不利益」について認めた内容となっている。交通量や景観に関する情報のインプットとしてとして日本イコモスのサポートは不可欠と考えられる。

3. 本部執行委員会報告

岡田保良本部執行委員から以下の報告があった。

2008年ケベック総会の2年後はイランに決定している。その次に日本が立候補するかどうかを検討する必要がある。

4. 2007年アジア太平洋Regional Meeting（南ア・プレトリア）の報告

報告事項として、日本イコモス宛に来たK. Buckley氏からのメールを全会員に流すことを確認した。

5. 2008年アジア太平洋Regional Meeting（中国・杭州）の報告

前野委員長、岡田本部執行委員、伊藤延男顧問から「アジア太平洋Regional Meeting」が6月10日に開催され、15カ国82名の参加者があったと報告された。また日本からは暫定リストの状況についての報告をした。

6. 2008年ケベック総会について

矢野事務局長から以下の報告があった。

① 名誉会員推薦及び本部執行委員推薦

名誉会員推薦のために坪井清足氏の推薦書及び履歴書、本部執行委員の推薦に岡田保良氏の推薦書及び履歴書をパリ本部に提出した。

② 総会シンポジウム参加者

現時点での参加予定者を確認した。

7. 中国四川地震へお見舞いレター

矢野事務局長から報告があった。INFORMATON誌7-6 p.9を参照されたい。

8. 中国の世界遺産登録物件 評価ミッションへの専門家推薦

矢野事務局長から報告があり、複合遺産など2件について日本から専門家を派遣することを確認した。

9. 奈良・大和北道路についての日本イコモスの意見

奈良・大和北道路について委員長、副委員長、坪井先生の意見をまとめて送付したと報告された。

10. 「平泉の文化遺産」世界遺産登録申請についてイコモスによる勧告

文化庁のプレス発表の資料を確認した。



国際シンポジウム「Traditional Villages and World Cultural Heritage」

(於：安東市、韓国 ICOMOS 主催) 参加報告

齋藤英俊 (筑波大学)

韓国 ICOMOS 主催の国際シンポジウム「Traditional Villages and World Cultural Heritage」が安東市で6月13日に開催された。このシンポジウムに千葉大学教授福川裕一氏と私が招聘されて参加したので報告する。韓国では、安東市にある河回村と慶州市にある良洞民俗村の2カ所の伝統的集落を近々世界遺産に推薦しようとしていて、それに関連する国際シンポジウムであると位置づけられる。

日本からの2名の他、ICOMOSからは民俗建築学術委員会委員長 Marc de Caraffe 氏と伝統的町・集落学術委員会委員長 Ray Bondin 氏、中国からは中国政府文化遺産事務局世界文化遺産課長 Lu Qiong 女史と建築歴史研究所所員 Fu Jing 女史が招聘され、それぞれが発表を行なった。各国側発表者2名を加えた8名の発表テーマを下記に記す。

SESSION I

- Marc de Caraffe: Historic Places and People
- Yuichi Fukukawa: Why, What and How Conserve?
- Some reflections upon OUV -
- So Hyun Park (Professor, Seoul National University):
Management Plans for World Heritage Sites
- Recent Trends in Historic Cities, Villages, and Districts -

SESSION II

- Hidetoshi Saito: The Historic Villages of Shirakawa-go and Gokayama - It's Values and Issues -
- Lu Qiong: Conservation of the OUV of Traditional Villages as World Heritage in China

SESSION III

- Ray Bondin: Managing World Heritage Cities and Villages
- Fu Jin: A Study on Value of Historic Center of Zhangguying Village & on Major Measures in its Conservation Planning
- Sung Kyun Kim (Professor, Seoul National University):

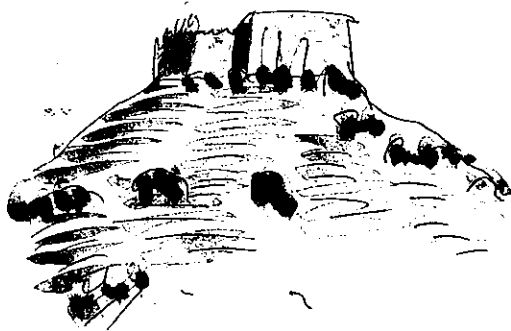


Poetics of Hahoe Village Landscape

シンポジウムは、韓国ICOMOS会長 Sang Hae Lee氏と安東市長の挨拶から始まり、以後、3つのセッションに区切り、2～3の発表とその発表に対するコメンテーターの感想と問題提起、および発表者とコメンテーター、会場の参加者を含めた議論、のかたちで進められた。各セッションの進行とコメンテーターは、韓国の文化遺産に関係する大学教授や韓国ユネスコ国内委員会、地方行政調査研究所の専門家などが担当し、このシンポジウムに対する韓国側の熱意が感じられた。河回村からの参加者も含めた約150名の聴衆も積極的に議論に参加し、集落での生活と伝統的家屋やその環境の保存との兼ね合いの問題、観光化の問題などが話し合われた。

翌日は、河回村と良洞民俗村の現地見学のため、朝7時半にホテルを出発した。各村での見学はそれぞれ2時間ほど、それ以外は約500kmの道のりを大型バスでひたすら走り続け、ソウルに到着したのは夜9時を回っていた。ハードスケジュールと村での短時間の滞在は残念であったが、それでも2つの村は印象的であった。河回村では、最近まで村の入口にあったという土産物屋とレストランは遠く離れた一郭に移され、村への車の進入も制限されていた。良洞村も、日本の観光地のような騒々しさはなく、落ち着いたたたずまいを見せていた。

この国際シンポジウムのコーディネイトを務めた韓国ICOMOS副会長のDongguk大学Hae Un Rii教授には、大変、お世話になった。改めて御礼を申し上げたい。



転機に立つ日本の世界遺産

毛利和雄 (NHK解説委員)

カナダのケベック市は1608年にセントローレンス川下流の北岸に築かれたカナダでもっとも古い都市である。氷河によって削られた河岸段丘は数階建てのビルほどの比高差があり、都市景観を大きく規定している。アッパータウンには世界遺産に登録されている平面形が星型の城壁に囲まれた旧市街地がある。今年はまさに建市400年祭、華やかなお祭り騒ぎと隣り合わせのコンベンションセンターで32回目の世界遺産委員会が開かれた。

ちなみに東京の開府400年祭が6年前だったから、ほぼ同じころ北米の一角にフランス風の城塞都市が築かれたわけである。このニューフランスより東側の大西洋岸にはイギリスが進出し覇を争った。ケベックは今でもフランス語圏だが、家並みにフランス風とイギリス風のもの混在していると聞かされた。確かに屋根だけでなく壁や土台の材料などバラエティーに富んでいる。それでも街全体は落ち着いた雰囲気統一されているのは日本の街と異なるところだ。

ところで400年前といえば日本は関ヶ原の戦いの直後、徳川政権が確立し、去年世界遺産に登録された石見銀山には徳川家康の家臣、大久保長安が派遣されて最盛期を迎えようとしていたところである。一方南米ボリビアではポトシ鉱山が16世紀に開発され、あいまって世界の一体化に貢献した。去年の石見銀山と同じように今年も平泉の逆転登録がなるのだろうか。

岩手県を中心にテレビ3社、新聞・通信5社が取材に詰めかけた。去年はTVカメラは1社もいなかったので一層過熱した取材となった。それに比べ、去年は中国韓国の報道人でロビーがごったがえしたが、今年は見当たらない。今年韓国は審査される資産がないし、中国は四川大地震と北京オリンピックを控えているせいだろうか。その一方で、ドイツからの記者がめだつた。ドレスデンのエルベ渓谷は交通渋滞解消のために橋が着工され世界遺産が取り消されるかどうか注目を集めていたからだ。しかし、結局エルベ渓谷の取り消しは1年間先送りにされることになった。世界遺産委員会は記

者会見をし、取り消してしまえば影響力を全く及ぼせなくなるので川底トンネルに変更できないか見守ることにしたと説明した。その通りなのであろうが、できればドイツ政府と事を構えたくないとの世界遺産センターの意思も働いているようだ。世界遺産委員会は、政府代表団に専門家も混じってはいるが、各国の利害関係や思惑が交錯する外交の場でもある。

さて平泉である。2年続きのイコモスの記載延期の勧告とあって近藤誠一ユネスコ大使は自ら発案した平泉の都市模型をつらえたアタッシュケースを持ち歩いて委員国への働きかけをしたのだという。しかもイコモスの勧告が出る前から日本の精神文化の歴史に関するパンフレットを用意し、浄土思想を理解してもらい前段として理解を求める活動をしたというから、去年を上回る“外交攻勢”だったわけである。今年の平泉は容易なことではないとの予測から去年に引き続き対策を講じられてきた近藤大使の労は多としたい。地元岩手県からも宮舘副知事をはじめ平泉町、一関市、奥州市の関係者が大挙訪れロビー活動を繰り広げた。

それでもやはり逆転登録はならなかった。

イコモスの「評価結果及び勧告」は、一言でいえば「浄土思想を基調とする文化的景観」というコンセプトによって首尾一貫した説明がなされていない。つまり平泉の全体の配置と寺院や庭園群との間における浄土思想との関連性が十分に証明されていないと指摘している。

また浄土庭園について近隣諸国との比較研究が不足しているとする。さらに長者ヶ原廃寺や白鳥館遺跡、骨寺村荘園遺跡は浄土思想と直接関連がないので推薦資産から外してはどうかとの具体的提案まで含まれている。

こうしたイコモスの勧告に対し、世界遺産委員会の審議の中で、平泉は行政・政治・軍事・精神といった様々な意味を同時に持ち素晴らしい。池にみられるように精神と自然とが融合した独特の景観を呈している。人々の心の中に平和の砦を築かなければいけないとのユネスコ憲章にも通じる価値を有している。そうした目に見えない資産も評価すべきだなど日本を擁護する意見も出された。

近藤大使は意見の表明を求められ、「9つの資産は体の大切な部分であるように一体として文化的景観を形成している」として、あくまでも日本の見解を主張し理解を求めた。

しかし、資産の構成について日本が自主的に判断して再

推薦すべきとの意見を述べる国もあり、去年とは違って記載延期を前提に意見を述べる国が多かった。結局イコモスの勧告通り記載延期となった。

文化的景観については、個々の資産の空間的な繋がりで景観が形成されるのに、日本の推薦書では「空間的な繋がりに」の部分「バッファゾーン」にされており問題であると指摘されている。

こうした世界遺産委員会の審議に対し、産業遺産である石見銀山に比べ精神的な浄土思想を理解してもらうのは難しかったと日本政府は説明しており、そうした報道も多い。しかし、世界遺産の舞台裏はドレスデンのエルベ渓谷に関しても述べたように、外交的な思惑が働いているとする見方もある。大国が要望するとユネスコ（世界遺産センター）としてもむげにはできない。しかし、それを繰り返せば専門家の国際的NGOイコモスが審査に基づいて勧告し、それを原案に世界遺産委員会が審査する仕組み自体が行き詰まってしまうことになる。とすれば去年の石見銀山とは違って、2年連続の記載延期の勧告が出た時点で平泉の逆転登録はありえなかったことになる。

日本初の記載延期の事態に文化庁と外務省は記者会見をし、今後も平泉の世界遺産登録を最優先する見解を表明した。そのために再び学識経験者に依頼した委員会を立ち上げ平泉の再推薦の推薦書を検討する。ただし9つの資産が一体となって初めて平泉は成り立っているので再推薦にあたって資産をはずすことはないとの方針を明らかにした。

文化財保護は地方があって初めて成り立つものなので切り捨てはしないとの方針はもともとよに聞こえるが、コンセプトの方を見直しても浄土思想を基本に据えたままでは、上述したイコモスの勧告との齟齬は解消されないままのこることになる。とすれば平泉の来るべき再挑戦は容易なことではないとの見方も出てくる。委員会に再びゆだねるとしながら最初から文化庁が枠組みを設定するようなやり方に問題はないのだろうか。というのは今回の平泉の推薦に当たって以下のような問題点を指摘する意見もあるからだ。

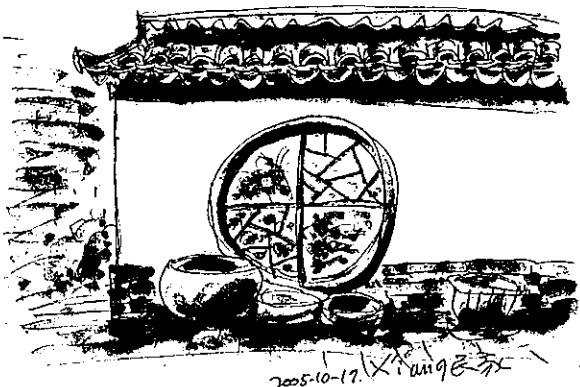
推薦書の起草委員会が立ち上がった際にはすでに9つの資産が決まっていたこと。推薦書の起草の最後の段階で開かれた国際研究集会で急きょ「浄土思想」のコンセプトが決まり、ほとんど書き上げられていた推薦書にきちんと手を入れ



て首尾一貫したものに仕上げられなかったこと。推薦書を一応まとめた段階で起草委員会が解散し、その後のイコモスとのやり取りなどに対応できなかったことなど、文化庁と岩手県をはじめとする地元の関わり方に問題があるとの指摘が出ている（『季刊東北学』第16号）。ちなみに同書には、ヨーロッパの都市との違いに配慮して平泉には都市という言葉が明瞭に使っていないが、日本的な都市という地域性を明確にした方が普遍性に通じるのではとの見解や浄土思想は日本で変容しており「日本的仏教」というワードを用いた方がよかったのではないかなど具体的な提言もある。

また、日本全体の文化遺産に関して文化庁が担当しているが、記念物課に限られた職員に負担がかかりすぎている態勢に無理があるとの指摘もある。さらに日本からの情報発信機能を高めるために文化庁内部の態勢を見直すとともに文化庁と外務省が有機的に連携し組織的に取り組める態勢の構築が必要ではないかという意見も聞かれる。

世界遺産を多くの地方が希望している現状にあって、平泉の行方は日本全体の世界遺産の今後をも左右しかねない。日本で初めて記載延期が出たのを機に世界遺産に臨む日本政府の態勢を見直すべきとの指摘は故なきとしないのではないだろうか。



シルクロードの包括的世界遺産登録をめざす西安会議

前田耕作（東京文化財研究所）

「シルクロードの世界遺産包括登録のための地域ワークショップ」が6月2日・3日の両日、西安で開催された。昨年10月、同じく西安で開催された会議には日本イコモス会長の代理として私が東京文化財研究所の山内和也氏とともに出席したことこの会議の大要はすでに大野渉氏によって報告されている。この会議で提案されたシルクロードの基本構想はヨーロッパと中国を基軸に据えたもので、いざさか東アジアへの配慮に欠けるものであった。私たちはコンセプトペーパーに韓国と日本へ言及する表現の付加を求める発言を行なったが取り上げられなかった。予め提出しておいたプレゼンテーション「シルクロードの歴史的コンセプト」を読み上げる機会もなかった。

今回のワークショップは、このコンセプトペーパーをケベックで開催される第32回世界遺産会議に提出するため最終的な確認を求めるものであった。この会議に日本側から出席したのは前田耕作・山内和也（東京文化財研究所）と斉藤純（外務省国際文化室交流）の3名である。会議の初日、中国側から日中個別のミーティングを行ないたいと申し出があり、2日に涉り、2度のミーティングをもった。中国側の出席者は顧玉才（国家文物局文物保護局長）・郭旃（中国イコモス会長）・徐華芳（中国考古学会会長）・安家遥（中国イコモス副会長）の4氏であった。初日のミーティングで率直な意見交換することを申し合わせ、日本側のコンセプトペーパーに昨年秋の会議で日本側が提案した文言の書き加えをめぐって話し合った。2日目の会合でコンセプトペーパーの2箇所に加筆することで合意に達した。この部分修正案は中国によって他の中央アジア5カ国に本会議席上で提案、承認された。用意されたプレゼンテーション「シルクロードと日本」（英・中・露の訳文配布）も披露することができた。私たちは、最終的な場面を迎えていた時期に、日本側の意見に耳を傾けてくれた中国と中央アジア5カ国に対し謝意とともにシルクロードの世界遺産登録を支援することを表明した。昨年と今年、2度の西安会議に出席して痛感したことは、世

界遺産の登録について広い国際的視野に立つ戦略的対応の必要性和国内態勢の不足であった。文化遺産保護の分野で国際的に活動できる人材の育成とそれを実施する機関の整備が急がれる。

2008 ICOMOSアジア太平洋西湖会議報告

前野まさる（日本イコモス国内委員長）

参加国・参加者について

2008年のICOMOSアジア太平洋地域会議は6月9日から13日まで上海の西方杭州の西湖で開催された。会議の参加国は14カ国から21名、中国からは中国文物局幹部、地元杭州市幹部、中国世界遺産関係者、博物館関係者など86名、総勢107名の大集会だった。特に会議のテーマはなく、各国ICOMOSの活動状況や現在各国が抱えている世界遺産の管理問題、気候変動と文化遺産問題の報告があった。

各国の世界遺産の管理問題について

日本からは、岡田保良氏が日本の世界遺産登録の傾向について報告し、伊藤延男氏は世界遺産36年の歴史を顧みて、今後について見解を述べた。私は日本イコモスの活動状況について報告した。

フィリピンからは、危機遺産にされているイフガオの棚田問題で、水と樹木の管理の難しさがあったこと。水に関しては先進各国の協力を得て棚田の余剰水で小型発電を行なっていること。日本も技術協力している棚田の管理は住民の協力を得て目下進行中であることが報告された。

タイからは、遺跡の管理を住民の協力を得て遺跡周辺のごみ拾いから始めていることが報告された。文化遺産の保存には住民の理解と援助の重要性をしみじみと語っていたのは印象的だった。

モンゴルからは、文化遺産の現況が紹介され、経済中心の志向が強く、文化遺産の破壊が進みつつあること、また、近年の気候変動で乾燥地帯が一層拡大し、懸念していることが報告された。

観光問題に熱心な韓国ICOMOSからは、世界遺産の案

内板の表現を規格統一する手法の紹介があった。その手法は、1) 案内板の絵の表現統一、2) 遺産の種類によって色分けする案、3) 案内板の内容別に素材を統一する案など。一考に値するのではないだろうか。

近年の地球温暖化は各国にさまざまな問題を投げかけている。

スリランカでは、津波後の住民救済と文化遺産管理について、Host Communityの形成の必要や歴史的地域の管理の強化と建築の保存対策の強化が報告された。また、学校の児童を含めた次世代の対災害教育と文化遺産教育を計画していることが伝えられた。

オーストラリアは、温暖化により海面の上昇が見られ、沿岸都市で洪水が起きやすくなり、またキャンベラの近くでも山火事が多発し、オーストラリアの先住民アボリジンの遺産も被害を受けている。この対策には気温上昇の一因であるCO₂の発生を抑えるためにエネルギーの節約を全世界で進めることを訴えた。

中国は、杭州と西湖の価値付けの報告が多数を占めた。まず、杭州市を歴史的都市として指定し、5000年の歴史を守り、運河沿いの住宅・町並みの保存、運河の歴史と共にある寺・磨崖仏・六和塔を保存すること。西湖は杭州のSpiritであるゆえ、漢時代より3時代にかけて整備されてきた仏教施設もあり、仏教と共に守る。この中である研究者が「西湖の高度800m～2500mの地域には自然の循環系があり、西湖には民族的伝統の価値、文化的価値、精神的価値が有る。西湖の文化的景観は日本や韓国でコピーされてきた。」と述べ、その事例として日本の19カ所の庭園、池を示した。これに対し、伊藤延男氏と韓国の李恵恩女史が「コピーとはおかしい、影響は受けても大きく異なっている。」と反論した。世界中のこうした文化の伝播を如何に理解し伝えるか、ICOMOSアジア地域会議で論議するの必要を感じず。

最後に、西欧とアジアの思考の違いを思わされることがあった。西湖の文化的景観について、西欧人は一般に分析的なものを解釈するようだが、中国人は「西湖には全ての視点が込められており西欧的分析は不能、天地人合一的哲学」と対極的なものをとらえる。アジアの文化は、西欧とは歴史・文化も異なり、同一のものではなくて異なるのが実感であった。



今後も、西欧とは異なる民族、歴史、自然条件を持つアジア太平洋地域のICOMOSメンバーで、さらに論議を深めることが求められる。

お知らせ

第22回CIPA国際シンポジウム2009（京都）の開催

来る2009年10月中旬、京都において第22回CIPA国際シンポジウムが下記の要領で開催される運びとなりました。アジアで初めての開催となります。

CIPA (International Committee for Architectural Photogrammetry) は、ICOMOS (International Council on Monuments and Sites) の国際委員会のひとつとして、ISPRS (International Society for Photogrammetry and Remote Sensing) と共同で1968年に設立された組織であり、新しい計測技術および表現技術の導入と普及による文化遺産のドキュメンテーションと利活用の手法の改善をめざした諸活動を推進しています。二年に一度、学術成果の発表を含む国際シンポジウムが開催され、前回は2007年10月にアテネで行なわれました。

コンピュータやインターネットを中心に、情報通信技術の発展と普及が進み、豊かなデジタル情報を誰でも利用することができるようになってきました。また、レーザー計測、デジタル写真測量、リモートセンシング、GIS、CG/VRなどの計測、分析、表現の技術も急速な進歩を続けています。文化遺産の修復・保存、考古学、歴史学、建築学などの分野においても、これら新しい技術を利用した文化遺産のデジタルな記録・保存（デジタルドキュメンテーション）と、新しい表現技術（ビジュアライゼーション）による利活用と公開の重要性に対する認識が高まっています。

皆様の積極的なご協力、ご参加、ご後援をお願い申し上げます。

参考 URL :

CIPA のホームページ <http://cipa.icomos.org/>

CIPA 2009 京都のお知らせ

<http://www.chikatsu-lab.g.dendai.ac.jp/arida/index.html>

CIPA 2007 アテネのホームページ

http://www.survey.ntua.gr/hosted/cipathens_2007/

記

時期：2009年10月11日（日）－15日（木）

（日本写真測量学会秋季大会（10月14日－16日）と同時期開催）

場所：京都テルサ（JR 京都駅より南へ徒歩10分）

<http://www.kyoto-terrsa.or.jp>

言語：英語

主要スケジュール：

論文アブストラクトの締切 2009年2月15日

論文の採択通知 2009年5月15日

論文のカメラレディ原稿の締切 2009年7月1日

シンポジウムの主要テーマ：

- 文化遺産のデジタル記録、ドキュメンテーション及び利活用
- 文化遺産の修復・保存における ICT 技術利用
- デジタルアーカイブ
- 文化遺産のデジタル写真測量、レーザー計測およびリモートセンシング
- 文化財防災
- デジタル考古学
- GIS、バーチャル歴史都市
- ドキュメンテーションの標準化
- 知的所有権、オープンソース
- 3次元モデリング、ビジュアライゼーション、CG・VR・MR・Web 技術
- 教育、コミュニケーション
- 画像処理技術、センサー技術 など

お問合せ先：

日本写真測量学会事務局 藤野 office-jsprs@jsprs.jp

高瀬裕（Symposium Director of CIPA 2009、立命館大学）

日誌 事務局

(2008年5月27日～2008年7月30日)



- 05/30 (財)ユネスコ・アジア文化センターより「文化遺産ニュース vol. 18、March 2008」を受領。
毛利和雄氏より「世界遺産と地域再生 一問われるまちづくり」を受領。
- 06/04 文化遺産国際協力コンソーシアムより「リビング・ヘリテージの国際協力 一町並み保存の現在と未来」を受領。
東京文化財研究所文化遺産国際協力センターより、「世界遺産プランナバン遺跡修復協力事業報告」、「Historical Documents of Prambanan Temples, March 2008」、「Geometrically Modified Images of Prambanan Temples, March 2008」、「Collected Drawings of Prambanan Temples, March 2008」を受領。
- 06/09-10 杭州にて開催された会議(2008 ICOMOS Asia-Pacific Conference and Hangzhou Forum on Conservation of World Heritage)に日本イコモス国内委員会より、前野委員長と岡田本部執行委員が参加。
- 06/12 【JAPAN ICOMOS INFORMATION】第7期6号発行、会員に順次発送。
- 06/14 2008年次第2回拡大理事会開催(於 岩波書店一ツ橋ビル 地下1F 会議室)。
富岡製糸場と絹産業遺産群の見学会・意見交換会。
- 06/16 文化財保存修復学会 会長 三輪嘉六氏へ文化財保存修復学会創立75周年記念国際シンポジウム「東アジア、東南アジアの文化財の保存修復」の後援依頼に対して許可を返送。
特定非営利活動法人文化財保存支援機構 理事長 三輪嘉六氏へ「ヨルダン王国・世界遺産遺跡スタディツアー」の後援依頼に対して許可を返送。
- 06/23 ICOMOS ThailandよりNewsletter no.13 (April- July 2008)を受領。
文化遺産国際協力コンソーシアムより「文化遺産国際協力と人材育成」シンポジウム報告書を受領。
- 06/30 ACCUより「Preservation and Restoration of Wooden Structures」、「Training Report on Cultural Heritage Protection」、「The Workshop 2007 for Protection of Cultural Heritage at Siem Reap in Cambodia」、「Programme Report」、「2nd International Conference on Risk Management」、「地震・雷・火事…津波一突然襲い来る危機から文化遺産をどう守る」、「First Regular Report」を受領。
- 07/02-09 UNESCO World heritage Committee 32nd session, Quebec, Canada開催。
- 07/06 第5小委員会の会合(於 文化財保存計画協会の事務所会議室)
- 07/08 別府大学 学長 西村明氏へ公開シンポジウム「地域から見た世界遺産」の後援依頼に対して許可を返送。
- 07/14 (財)ユネスコ・アジア文化センターよりACCU news no. 368、2008.7を受領。
- 07/16 毛利和雄氏より、UNESCO World heritage Committee 32nd session, Quebec, Canadaにおける配布資料(写)を受領。
日本ユネスコ協会連盟よりユネスコ vol.1116 2008.7を受領。
- 07/18 7月18日のコンソーシアムシンポジウムで、前野委員長・清水真一理事、岡田執行委員、稲葉信子氏などが発表。
- 07/28 パリ ICOMOS 本部より、新メンバーの ICOMOS カードが到着。順次発送。
- 07/25 9～10月にカナダ ケベックにて開催されるイコモス総会における選挙の対策会議を開催(於 文化財保存計画協会の事務所会議室)。
明日の轡を考える会会長他3名から、轡の浦に関する7/10付公開質問状を受領し、7/25付で回答。
文化財保存修復学会創立75周年記念国際シンポジウム事務局より、同シンポジウム「東アジア、東南アジアの文化財の保存修復」のポスターを受領。
- 07/30 動体計測研究会 (ARIDA) へ「第3回 文化遺産のデジタルドキュメンテーションと活用に関するワークショップ」の後援依頼に対して許可を返送

日本イコモス国内委員会 維持会員 (代表者)

(敬称略・順不同)

株式会社 尾田組 (尾田芳信)
株式会社 都市環境研究所 (矢嶋啓昌)
株式会社 ブレック研究所 (杉尾伸太郎)
株式会社 トリアド工房 (伊藤民郎)
西武建設株式会社 (大澤茂治)
北野建設株式会社 (北野貴裕)
株式会社 小林石材工業 (小林美和)

株式会社 鴻池組 (玉井啓悦)
株式会社 乃村工務社 (乃村義博)
株式会社 文化財保存計画協会 (矢野和之)
「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会 (菅谷 昭)
株式会社 京都科学 (片山 保)
「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」(仁科恵敏)
株式会社 丹青社 (渡辺 亮)

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業・団体のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Secretary General	事務局長	矢野 和之	Kazuyuki YANO
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		黒田 乃生	Nobu KURODA
		清水 真一	Shinichi SHIMIZU
		杉尾 邦江	Kunie SUGIO
		鈴木 博之	Hiroyuki SUZUKI
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		田辺 征夫	Yukio TANABE
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		宮城 俊作	Shunsaku MIYAGI
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		前田 耕作	Kosaku MAEDA
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		三宅 理一	Riichi MIYAKE
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
		崎谷 康文	Yasufumi SAKITANI

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
ISC on:		
Archaeological Heritage Management	小野 昭	Akira ONO
	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Analysis and Restoration	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage Training	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工峯 善通	Yoshimichi KURAKU
Cultural Landscapes	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中 眞	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	伊藤 延男	Nobuo ITO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Heritage Documentation	山田 修	Osamu YAMADA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
	大野 渉	Wataru OHNO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI



JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.7, No.7 05 SEPTEMBER 2008

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル13階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>

JAPAN-ICOMOS National Committee Secretariat

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@japan-icomos.org

<http://www.japan-icomos.org/>